「図書室だより」

中央公民館内　9：00 ▶ 16：00

『野菜がおいしくなるクイズ』
（緒方湊／飛鳥新社）

まいにちのお買い物が、宝探しみたいに楽しくなります！甘味がアップ！栄養バランスも◎！クイズと絵で覚えるから絶対忘れない。スーパーやキッチンで役立つ、〝野菜の見分け方、食べ方、保存の仕方〟が身に付く、答えるだけで「料理」まで上手になるクイズ30問。

『カミキイのか和いい季節のおりがみ』
（カミキイ／日本文芸社）

季節に合わせて、飾ったり贈ったりして楽しめる、かわいい「和」作品をご紹介します。お正月や七夕など日本ならではの行事で使える作品はもちろん、ハロウィンやクリスマスのモチーフも、和風の柄や和紙で折ると一味違った魅力を発見できるはず。また、壁やドアを彩るリースも12か月分をまとめてご紹介します。

No.188 「森の子ども図書コーナー」

交流サロンぽすと内

『あかいしろくま』
（柴田ケイコ/作・絵
PHP研究所）

ぼくは、おいしいものをたべるのがだ～いすき。みんなから「くいしんぼうのしろくま」っていわれている。すききらいは、ない。

あかいたべものがおきにいり。「だいすきなあかいたべもののなかにはいってみたら、どんなかんじかな」そうぞうするだけでとっても、おもしろい！おかあさんからもらったプレゼントをきて、まちのへいわのためにたたかう！

このほんは、くいしんぼうのしろくまが、「たべもののなかにはいったらどんなかんじかな？」想像している作品です。

小学生の方々に人気な一冊です。

地域おこし協力隊 通信 No.4

隊員　鈴木　朋広（ともひろ）

金山町 地域おこし協力隊

馬車練習始まりました

こんにちは、協力隊の鈴木です。夏のしんきんの森・カムロ近郊はアブなどの虫がいっぱいで、馬も虫に刺されて落ち着きませんでした。人間と同じで、暑さや虫はものすごいストレスで体力を消耗します。今は、少しずつ嫌な虫も減ってきて、馬も過ごしやすくなってきました。

輓馬のキララは仔馬の世話も終わり、少しずつ運動しながら体力を回復させています。先日、シェーネスハイムの近くで初めて馬車を引いてみました。さすがキララはベテランで、落ち着いて馬車を引っ張っていました。今後は10月末に開催予定のセラピーファームめごたまマルシェでの初運行を目指して練習していきます。詳細が決まりましたら、お知らせしますのでお楽しみに！まだ練習中ですが、シェーネスハイム付近で馬車を見かけたら、乗れるかもしれませんので、気軽に声をかけてください。

馬車を引く馬はもう一頭います。ベルジアンホースのシエラがベルギーからやって来ました。まだ若い馬で練習が必要ですが、とても大人しくてかわいい馬です。近日シエラも馬車を引いているかもしれません。

いつも、しんきんの森の杉林にいますのでよろしくお願いします。

Facebookで活動を発信しています！ぜひチェックしてください！

東京金山会のページにアクセス！

東京金山会通信 No.30

問い合わせ
東京金山会 広報担当（藤山善夫）
☎080-5525-0435
✉fujiyama.d.siren@ae.auone-net.jp

東京2020パラリンピック閉会式が終わると、急に秋の空気が薫りはじめた東京。
青空の色が、少しだけ白みがかりながらも澄んだ高い空の季節となりました。今回は「東京で頑張る金山出身者」と「東京金山コラム」をお届けします。

「東京金山コラム」Vol.9「水」

金山の水は「清水」。「東京水」として、高度な技術で世界最高レベルの水道水を提供する東京都水道局も、金山の「清水」には敵わない。東京の水道の原型は「神田上水」。井の頭公園の「井の頭池」から海辺の湿地帯に造られた新都市「江戸」へ貴重な飲料水を供給。16世紀から20世紀（明治34年）まで現役で使われた。今日「東京水」の恩恵を受けながら、金山出身の我々しか知らない、清水をフキの葉ですくった。優しい「甘露」の懐かしい香りと比べてしまうのは、東京に暮らす身としては、誰よりも贅沢なことかも知れない。

【都会でがんばる金山町出身者】 14人目

田茂沢出身の新橋いち子（旧姓 柿崎）です。
高校卒業と同時の18歳で上京し、就職、結婚・出産、そして現在は子育ても終了しました。上京後、定期的に帰省していますが、歳をとると共に故郷が恋しくなり、金山へ帰る事がとても楽しみです。時に一緒に帰省する夫は、東京出身のため、どっぷり田舎町の金山がとても新鮮で刺激的らしく、あのおいしい空気と大自然を満喫しているようです。今は主人の生まれ育った東京スカイツリーのある墨田区で生活をしています。

現在の新型コロナウイルスの影響で、帰省はおろか行動を自粛する日々が続いており、様々な我慢を強いられています。ストレスを感じナーバスになってしまいそうですが、また金山に帰省できる日を楽しみに、毎日を元気に送っていこうと思います。

ぷんぱい

金山杉俳句会報　第四五五回

花氷溶けて傘寿（さんじゅ）の会果つる　星川　キエ子
遠雷に沙汰無き孫を案じをり

百合咲くや花粉零るる卓の上　岸　昭子
風鈴に風の強弱ありにけり

川石に佇（たた）てる白磁の鷺（さぎ）一羽　高橋　洋子
鮎（はや）の網鮠（はや）の大群喜の誤算

御僧の袈裟に首振る扇風機　鵜沼　よし子
睡蓮の風渡り来る眼鏡橋

高々と幟（のぼり）挙がりて秋祭　阿部　一代
石塔に止りし蜻蛉（とんぼ）一休み

梅雨の蝶医院の前を低（ひく）くとび　阿部　サタエ
暑さにもコロナにも負けぬ五輪かな

かねやま紅風会

畑仕事蚊とり線香腰につけ　荒屋　阿部　勝子
梔子（くちなし）の香り漂ふ夜の庭

明け方の蜩に問ふ今日一日　荒屋　関　喜美子
足止める木槿の垣根無言なり

コロナ禍やお盆の月の静けさよ　菅越　庄司　けみ子
稲妻に怯へし孫を抱きしめり

オリンピック選手悩ます油照り　七日町　青柳　キエ子
現世と浄土をつなぐ大夕焼

二匹引く釣りの醍醐味夏の川　羽場　坂本　徳太郎
コロナ菌伝統止めた夏まつり

秋の色ひと雨ごとに深まれり　上台　阿部　一歩
念願の鳥居新たや秋祭り

一郷を誇る川辺の大花火　七日町　村松　枩風
溝萩を供花に亡孫（まご）への数珠を揉み